

# 仲本邸

## 土間縁側の家

茨城県笠間市

施行：サンウッド関東

平成9年（1997）8月完成

陶芸家である奥さんにとって、土間床はとても似合うに違いない・・・そう信じて？強引に土間床にしてしまったのは、パッシブソーラーのダイレクトゲインを念頭におきながらも、正直なところ自分自身の興味が半分だった。

寒いのは嫌いだからといって床暖房を希望する施主に、床断熱は不要・・・といって、跳ね返す私。結局「お客さんがくると床暖房なの？と質問するほど床が暖かい」といって奥さんは照れ笑いしながら。家全体が暖かいという感覚がようやく分かったという。パネルヒーターは朝は4～7時まで、夜は4～10時の間だけ運転して、晴れば日中は停止している。燃費は一ヶ月一万円程度。ストーブは友達が来たり、よっぽど寒い日だけ燃やすが、二階が暑くなってたまらない。夏は冷房なし。北側につくった地窓の通風が最高だとか。縁側の大きな開口から入る日差しで、土間は板と同じ温度になるが、夜はやはり冷える。それでも、冷気は土間に滞留して床上には上がらない。



板の間の上は一部が吹き抜けている。冬の二階から入った日差しは、その吹き抜けを通して一階展示棚の中間まで届く。そして一階の日差しは部屋の奥まで入り込む。大きな開口をもつ縁側は、いつの間にかメインの出入口になってしまった。サッシ下の踏み台の高さが丁度ベンチになる高さなので、近所の人が腰掛けて、のんびり話をしていく。そんな時間が得られる土間縁側は、この家の中で最も楽しい空間である。



土間縁側はモルタル仕上げの中に石を入れて化粧にし、歩く部分には板をはめている。パネルヒーターは土間を少し掘り込んだ状態で置いている。

ダイニングは土間の上であって、板床（さわら）がベンチ替わりになる。キッチンとダイニングの高低差が大きい、気にならないと言う



仲本さんのブログです。素晴らしい作品が満載

<http://www.clay90.com/product-group/9>



仲本さんの家が3.11に震度6強の地震にみまわれて、多くの作品が壊れてしまったといいます。そんな仲本さんからこんなメールが。。

4月11日の最大余震のとき 震度5強でした。  
その日は 何度も大きな地震が夜まで続きました。  
そんな中 激しい雨が降り始め、横殴りの強風が吹き、  
ヒョウが降り、雷が向かいの山に落ち、停電し、  
また 余震が来る！

三人で仕事をしていたのですが、最初は脅えていたのに あまりの ヒドイ状況に

一人が笑い出したら すごく可笑しくなって 大笑いしてしまいました。

「こんな経験はめったに出来ないよね」 土間縁側はモルタル仕上げの中に石を入れて化粧にし、歩く部分には板をはめている。パネルヒーターは土間を少し掘り込んだ状態で置いている。

「まるで 全部出します天災祭り ダネ」